

## 5. 研究の概要と考察

### (1) 研究の概要

#### ① 研究推進委員会の企画・運営面における研修主任等への働きかけ

これまでの授業研究反省記録、意識調査資料を提示し、「校内研修の基本は、授業であり、その授業は自己研修によって支えられる。」を合い言葉に、授業改善のための課題と具体策を明確化して、自己研修が進められるよう援助指導した。

#### ア. 授業課題解決のための具体策の立案 (自己研修課題の明確化) (6月)

《今後の授業実践に当たって》

指導訪問時の授業の指導・反省を生かしながら、今後授業実践をするために、授業課題を明確にし、解決の具体策を講じて自己研修、実践する。

1. 授業課題 (自己課題)  
(考えられるものをできるだけ多く、大切と思われる順に記入)  
○  
○
2. 課題解決のための具体的方策  
○  
○

#### イ. 授業課題解決のための授業実践とその援助指導 (6～7月)

各自の授業課題に基づき、授業研究実施。教頭はできるだけ参観し感想を含めて成果を認め励ます等、必要に応じて個別の援助指導をした。学年・ブロック主任が中心となって、自主的に運営し実践された。

#### ウ. 参考図書購入による全職員の学び合い (7月) (事例略)

#### エ. 全体授業研究会 (講師招へいによる全員授業) (9月中旬)

これまでの成果と課題を明確にして今後の授業実践に生かすことができるようにした。(研修主任への援助指導)

《今回の全体授業研究会から》

6月の指導訪問、そして授業課題解決について実践してきた。それをうけて、今回の授業研究会という過程を踏まえ、更に、今後の課題解決に取り組もう。

1. 今回の授業研究会から学んだこと。
  - ① 授業の改善・充実について
  - ② その他
2. 他の学級の授業参観によって、学び、自分の授業にも取り入れられることは何か。
3. 今回の自分の授業について
  - ① 問題点は
  - ② 指導されたこと (及び反省)
  - ③ 今後の課題と具体策 ○課題 ○具体策

#### ② 月・週のねらい、指導資料等の提供と週案の活用、援助指導

ア. 「経営の視点」「週のねらい」の提示  
毎月の職員会議において、校内研修との関連を図るために、『授業の質的改善に向けて』を経営の視点の第1に掲げ、授業実践への意識を高めるよう提示した。さらに、これに基づいて、週のねらいを「今週の予定」に明示した。実践の状況等については、週案からくみ取り評価、反省を試みようとした。

平成2年度 10月経営の視点

充実した実りの秋、研究公開を迎えて、意図的・計画的に研究実践をしよう

1. 『授業の質的改善』に向けて
  - 「児童が集中して学習のめりこむ授業」をめざした共同・自己研修を。
  - 授業課題、実態に応じた到達目標の設定とその具体的方策を。
  - 学年・ブロック、教科部会等の協働研究態勢を。
  - ◎ 授業研究会(9月19日)の反省、問題点、課題を明確にした実践を。
  - ◎ 研究公開の授業案作成を計画的に(指導事項を生かして)。
- 『いま、なぜ、…なのか。』…でいきたい。
  - \* 児童にとって、魅力ある授業の導入。
    - ・単元の導入、1単位時間の導入における知的好奇心、問題意識の醸成による内発的動機づけを重視
    - ・単元の展開が細切れにならないように・・・連続、発展性を。
- 児童の発想(感性)をくみ取り生かす工夫
  - ・児童の、多様な考えや多彩な活動をできるだけ取り入れる授業の展開を。(表現力を豊かにする場、チャンス……)

平成2年度 11月経営の反省

充実した実りの秋。研究公開をひとつの節目として、後期の教育活動の充実が図れるようさらに、意図的・計画的に研究実践を深めよう。特に、これまでの成果と課題を踏まえて、今後も研究・実践を深めていくことが、本年度重点目標の具現へつながることでもある。

- \* 教育研究による弊害があってはならない。児童のよりよき変容を求めて実践してきたのであるから・・・だからこそ、私たちの研究は、機能概念としてとらえ、あらゆる教育活動を通して実践してきたはずである。